佐野フィルムコミッション設立記念「まちなか青空映画祭」

12月1日(土)、市役所建設予定地周辺で、佐野フィルムコミッション設立記念「まちなか青空映画祭」が開催されました。

フィルムコミッションとは、映画やドラマといった映像作品の撮影を誘致・支援し、支援した映像作品を通して、市のイメージアップや知名度の向上、地域活性化などを図ることを目的に設立された組織です。

当日は「まちなか青空映画祭」として映画上映会が行われたほか、佐野ブランドキャラクター「さのまる」をはじめとする「ゆるキャラグランプリ２０１２」上位キャラのパレードやステージショーなどが行われ、たくさんの来場客がイベントを楽しみました。

映画監督・堤幸彦さんと佐野ブランド大使・ダイアモンド✡ユカイさんを迎えた記念トークショーでは、堤さんが俳優の故・緒形拳さんの勧めで映画を撮り始めたことや、カメラワークの秘訣などがおふたりの絶妙な掛け合いのもとに話されました。

堤さんは２００９年に映画「劇場版ＴＲＩＣＫ　霊能力者バトルロイヤル」を市内で撮影。佐野市の撮影環境と受け入れ態勢を評価したうえで、今後の市内での撮影をほのめかしました。

なお、佐野フィルムコミッションでは、エキストラの募集などを行っています。詳しくはホームページ(http://sano-film.jp/)をご覧ください

佐野駅前でイルミネーションが開始

１１月２４日(土)、佐野駅前交流広場で、「FANTASTIC ILLUMINATION in SANO ２０１２」が始まりました。

毎年冬の恒例となっている佐野駅前のイルミネーション。初日のこの日には点灯式が開催されました。日没後、カウントダウンとともにイルミネーションが点灯されると、駅前は幻想的な雰囲気に包まれました。

点灯式では他にも、特設ステージでバイオリンやゴスペルのコンサート、バルーンアートなどが披露されました。また、サンタから子どもたちへのプレゼントや、「さのまる」との記念撮影もあり、たくさんの子どもたちの笑顔が見られました。

この駅前イルミネーションは、２月１４日まで開催される予定です。暖かい服装で、ぜひお越しください。

第８回さのマラソン大会を開催

１２月９日(日)、第８回さのマラソン大会が盛大に開催されました。

このマラソン大会は、スポーツを通して友好の輪を大きく広げ、走る楽しさや喜びを味わい、佐野市のイメージアップを図ることを目的に開催されています。

運動公園陸上競技場をスタート・ゴールとして、２キロ・５キロ・フルマラソンの３コースが用意され、市内外から２７００人を超える方が参加。風が強いコンディションではありましたが、沿道の皆さんからの声援を力に、多くのランナーが完走しました。

みんなで踊ろう♪さのまるろっくんろーる！

イルミネーション点灯式で「さのまるろっくんろーる」を歌う坂井くにゆきさん

“ゆるキャラグランプリ２０１２”において、佐野ブランドキャラクター・さのまるは堂々の全国４位を獲得し、佐野市民のみならず、人気が全国規模になったことを証明してくれました。

地域を越えて、さのまるを応援する人たちはどんどん増えています。佐野ブランド大使・ダイアモンド☆ユカイさんはさの秀郷まつりで「さのまる音頭」を発表され、医療法人聖生会を主催する松永愛優美さんが作詞・作曲した「さのまるろっくんろーる」は楽しい振り付けで、子どもたちや介護施設の皆さんの健康体操として親しまれるようになりました。

らーめん、いもフライと親しみやすい佐野の魅力をギュッと詰め込んだ愛らしいキャラクターさのまるは２月で２度目の誕生日を迎えます。今後も佐野の宣伝マンとして大いに活躍して欲しいですね。

（市民記者　永倉文子）

ＣＤの無料配布で集まった募金はあしなが育英会と日本赤十字に寄付されるそうです。

ペットを飼う際はマナーにご注意を

１２月２日（日）、「ドッグウォークｉｎ佐野」が赤坂町の秋山川河川敷で開催されました。

公益社団法人・日本愛玩動物協会栃木県支部が主催したこのイベントは、「散歩中は常にリードで繋ぐ」「フンは持ち帰る」などといった、犬の適正な飼い方を広めるために開催されたものです。

この日は、参加者とその愛犬・約５０組が集まり、秋山川堤防の土手のうえをゴミを拾い集めながら一緒に歩きました。また、愛犬と一緒にゲームやクイズも行い、楽しみながら適正な飼い方を学びました。

飼い主には可愛い犬や猫も、ご近所など近隣にお住まいの方に迷惑がかかる場合があります。動物を飼うときは、迷惑がかからぬよう、マナーに気をつけましょう。

佐野弁ばんざい

かたくなで強情っ張りをギゴという

人のいうことを無視し、自分の主張や意思を曲げずに、無理に押し通そうとすることを、共通語では頑固（がんこ）または一刻（いっこく）といいますが、佐野方言ではこれをギゴといいます。

「あの親父（おやじ）ったらサー、自分が言い出したコター（ことは）、間違ってタッテ（いても）、ぜったいに曲げネカンネー（曲げないからね）。あんなギゴ親父は今日日めずらしンジャーナカンベカ（ではないでしょうか）？」

明治頃までは男性社会というせいもあって、自分の考えや意志を曲げようとはしない男が多く、時には威張（いば）り散らす親父もいました。このような親父を共通語で「頑固おやじ」といったり、「義強（ぎごわ）おやじ」といっていました。方言のギゴは、この「ぎごわ」が省略されたもので、現在でも多くの年配者が使用しています。ギゴの意味とよく似た方言にカタバリッカがありますが、これは片意地を張る人という意味です。

「人の話も聞かネで、自分の考えを一方的に押し通すようなカタバリッカ（頑固者）ジャー、話ンナンネーネ」

カタバリッカは「片意地を張る人（家）」が変化した語で、昭和の初め頃まで各地で広く使われていました。だが、その後は次第に姿を消し始め、今では高齢者でさえもこの方言を使う人はなく死語となってしまいました。

（市民記者　森下喜一）